

第三期中期目標期間 業務実績評価方針及び評価方法等について

アンケート結果

1 今回の評価作業を受けてのご意見

複数の委員からコメントがあったもの

【全体】

作業量が膨大である。

報告書を作成する法人及びそれを評価する評価委員の双方に時間的な制約がある。評価(案)をきちんとチェックする時間を確保することが重要。評価者に時間的な制約があること良くない。

【業務実績報告書について】

中期計画を達成した項目について取組を記載しないのは、違和感がある。達成した項目についても、取組状況を確認するため、取組内容を簡潔に記載してほしい。

小項目の記載や小項目部分と特記事項との記載に重複がある。

(ゴシックで強調していたが、)アンダーラインを引く、資料一覧に関連する小項目を記載するなど、一目でわかるようにすると便利。重点的に確認することができる。

定量的データの他、既存の資料の活用を考えると良い。写真や成果物があると参考になる。ホームページをかなり見た。

【評価方法】

事前に議論の上、原案は事務局が作成し、それに意見を加えたり、加筆するといった作業であれば、時間の節約になる。

評価の経験から、国立大学法人評価等と比較すると、公立大学法人首都大学東京の評価が最も作業量が多い。国立大学法人評価も認証評価結果を用いるなどして、評価項目を減らす方向で動いている。

2 業務実績報告書について

(1) 業務実績報告書の記載方法・特記事項の記載について

Q 実績報告書の内容を見直すべきか？

現行のままで良い ... 名

見直すべき ... 名

定量的な目標の小項目について、記載を簡便な報告に改めるべき 名

【理由】

- ・ 網羅的に記載している感が強い。評価すべき重要な点をより簡潔に記載することが必要。
- ・ 定量評価項目については箇条書き程度のコメントで十分。
- ・ 項目自体はもう少し大括りしても良いと思う。

小項目の記載を簡素化し、特記事項を詳細に記載するべき ... 名

【理由】

- ・ 少しメリハリをつけても良いと思うが、小項目の評価についての重要性は変わらず、丁寧に見ていくしかない。

その他 ... 名

【理由】

- ・ 小項目と特記事項に重複感がある。どちらかを重点的に読むことで評価できるような記載方法であれば、評価しやすい。

改善の方向性（素案）

既存資料等の活用により、記載の要点を絞る。（大項目1つあたり、2～4枚程度を想定）

業務実績報告書作成要領に反映

特に定量的な目標・計画（KPI）がある項目については、記述式での報告を必要最小限の記載とする。

業務実績報告書作成要領に反映

特記事項に記載された事項には、小項目では「1-01 特記事項参照」などと簡潔に記載する。

業務実績報告書作成要領に反映

S	
	A+
A	
	A-
B	
C	

3 自己評価及び評価の段階について

(1) 法人の自己評価段階について

Q 法人の自己評価の段階の見直しを行うべきか？

現行のままで良い ...

【理由】

- ・ 現行の4段階評価で十分。細分化自体に意味があるとは思えない。
- ・ 評価の点数よりも評価説明（コメント）がより重要。評価が何を意味するのか明確にしなければ、評価が一人歩きするという問題がある。

細分化すべき ...

S～Aの間にA+（仮称）を設ける（5段階にする）べき...

【理由】

- ・ 計画を順調に実施した場合5段階の真ん中、計画を大幅に上回ったとは言えないが当初予定より上回って実施した場合、大幅に上回った場合に分けると良い。
- ・ Sを付けにくいけれど、良い取組を行っている場合、A+があると、付けやすくなるのではないかと（SとAの間の部分を評価しやすくなるのではないかと）。一方で、4段階のほうがより良い取組をメリハリつけやすく、4段階のままで良い。

A～Bの間にA-（仮称）を設ける（5段階にする）べき...

その他（6段階） ...

- ・ 現行のままで良いと思う。
- ・ Aの中にも、Sに近いAから、Bに近いAまで差がある。
- ・ もも採用（Aを細分化、A+とA-を導入）し、6段階評価ではどうか。

改善の方向性（素案）

5段階に自己評価段階を分け、「S」と「A」の間に新たに自己評価の評価を設ける。計画を順調に実施した場合を「B」（上から3段階目）とし、計画を大幅に上回ったとは言えないが、当初より上回ったと自己評価した取組などについて「A」を付す。

評価方針及び評価方法に反映

微妙なニュアンスについては、引き続き評価説明（コメント）の記述による。

評価方針及び評価方法に反映

(評定)
1
2+
2
2-
3
4

(2)項目別評価の評価段階について

Q 評定の段階を細分化すべきか？

現行のままで良い ... 2名

- ・都の他の2法人が4段階にするという議論はないのか。 など

細分化すべき ... 2名

5段階評価にするための見直しが必要である。

1と2の間に「2+」(仮称)を設けるべき

- ・ 4段階とした当初の考えも大切な視点であり、5段階にすると、3に相当する評価が増える心配。
- ・ 法人の自己評価と同様に1と2の間に「2+」を設けるのが良い。(自己評価計画を順調に実施した場合5段階の真ん中、計画を大幅に上回ったとは言えないが当初予定より上回って実施した場合、大幅に上回った場合に分けると良い。)

その他 ... 2名

- ・ 法人の自己評価と同様、現行の4段階評価で十分と思う。(細分化自体に意味があるとは思えない)
- ・ 評定の点数よりも評価コメントがより重要

改善の方向性(素案)

評定説明(コメント)を明示的に端的に表示するものであるため、5段階に自己評価段階を分け、1と2の間に新たに評定を設ける。計画を順調に実施した場合を3(上から3段階目)とし、計画を大幅に上回ったとは言えないが、当初より上回ったと自己評価した取組などについて「2」を付す。

評価方針及び評価方法に記載

微妙なニュアンスについては、引き続き評定説明(コメント)の記述による。

評価方針及び評価方法に記載

(3)評定の目安について

Q 評定の目安を明示すべきか？

現行のままで良い ... 2名

【理由】

- ・ 細かく判断基準を定めると、逆に評価しにくくなってしまいうこともあり、現行のままでよい。
- ・ 客観的な基準の設定は難しく、概ね心証によるしかない。多少、記述で補足意見を述べる程度が望ましい。

判断基準(目安)を設けるべき ... 3名

数値目標を定めている項目を除き、委員の心証によるべき... 2名

- ・ 数値目標を定めている項目は数値の達成状況を評価することは必要
- ・ その数値に対する達成度の評価は、評価委員が個々の考え方によるコメントを付けて評価すべき。

数値目標を定めている項目を除き、法人の自己評価に基づくべきである... 1名

その他 ... 1名

- ・ 「特筆すべき進捗」や「一定の注目事項」「重大な改善事項」における「特筆」「一定の」「重大な」については「基準(目安)」を設けておいた方がよい。
- ・ 単なる「100%超過達成」といった表現以外で具体的に事例を提示して欲しい。

改善の方向性(素案)

基準(目安)を示す。

評価方針及び評価方法に記載

微妙なニュアンスについては、引き続き評定説明(コメント)の記述による。

評価方針及び評価方法に記載((2)で対応)

(4)全体評価の評語について

Q 全体評価についても、評語を定めるための見直しをするべきか？

現行のままでよい ... 3名

【理由】

- ・ 全体評価は、現状で良い。法人の業務全体を捉えての評価であり、言葉で表現するのが良い。
- ・ 一定の評語表現はあっても良いが、その評語表現を踏まえつつも、自由に記載することが大切
評語を設定するなどの見直しを行う必要がある ... 3名
- ・ 評語を設定する方が評価の一貫性が高まるというのであれば、あってもよい。

改善の方向性（素案）

現状を維持する

4 評価方法について

(1)評価の大項目の単位

Q大項目の見直し（統合）をすべきか？

現行のままでよい ... 2名

【理由】

- ・ 法人運営・財務運営の大項目は整理できそう。
- ・ 具体案を見てみないと判断できない。
- ・ 評価記載方法となると、簡便的になる項目もあって良く、しっかり書き込むべきところを書き込むイメージ。

見直しが必要である。(必要な範囲で項目の統合をすべきである。) ... 4名

【理由】

- ・ 首都大は、教育については重複項目を削除する。研究の評価を詳細に行う。
- ・ 産技大・高専は、研究を1項目に統合する。社会貢献も統合する。
- ・ 法人は、全体に整理が必要。
- ・ 中期計画が達成済みの場合も年度評価は実施すべき。
- ・ 「少数意見」「反対意見」(肯定的評価を含めて委員のコメントの大勢とは逆の評価)があった場合に明記した方がよい。

改善の方向性（素案）

中期計画の項目に沿って、統合可能な項目について、必要な範囲で統合を行う。
業務実績報告書作成要領又は様式に反映

(2) 評定説明(コメント)について

Q 評定説明(コメント)を付す場合をより明確化すべきか?

現行のままでよい ... 3名

【理由】

- ・特に問題点を感じていない。

見直しが必要である ... 3名

【理由】

- ・「法人による自己評価と委員が付けた評定が異なる場合」、「特筆すべき点や注目すべき点」、「遅れている点」、「中位以外(上位及び下位)の評定を付した場合」等に限定的に評定説明(コメント)を付す方が、読まれる方に対して評価ポイントを伝えやすくなる。
- ・一般都民としては「少数意見」「反対意見」を明記された方が、メリハリのある評価と受け止めるのではないか。
- ・限定的な評定説明(コメント)でよい。

改善の方向性(素案)

大項目全体として、評定説明(コメント)を付す場合を明確化
評価方針及び評価方法に反映

評定と評定説明(コメント)に不均衡が生ずる場合(評定1なのに評定説明(コメント)がない場合など)は、これまでどおり、委員に評定説明(コメント)を求める運用を継続
現行どおり。毎年度、評価コメント依頼時に確認する。

5 全体評価の方法について

(1) 全体評価の評価コメントについて

Q 全体評価と項目別評価の重複を見直す必要があるか?

現行のままでよい。... 0名

全体評価のうち「教育・研究について」及び「法人の業務運営及び財務状況について」を削除し、法人・2大学1高専の項目別評価の冒頭部分に各機関の総括を記入するなど、評価書内での重複部分については、省略する方向で見直しが必要である。... 5名

【理由】

- ・ を削除するなどの見直しを図っていただくことでよい。「全体評価」とするにふさわしい内容になるのかもしれない。
- ・ 重複は極力回避すべき。

その他 ... 1名

【理由】

- ・ 具体的な資料を基に、分科会で検討する必要があり、早計な判断は難しい。

改善の方向性(素案)

項目別評価の教育、研究及び社会貢献の記載と重複する部分である「教育・研究について」及び「法人の業務運営及び財務状況について」を削除し、「総評」と「課題」を記載することとする。
評価方針及び評価方法に記載

6分科会の運営

(1) ヒアリング

Q ヒアリングの実施方法について、見直しが必要なことがございましたら、ご記入ください。

- ・組織の大きさから考えて、首都大についてはヒアリング時間を若干増やすことも必要。
- ・これまでの実施方法でよい。
- ・欠席または部分欠となった委員にとって書類以外でも事務局スタッフによる質疑等で実効的なヒアリングができるよう配慮してほしい。

改善の方向性（素案）

7月のヒアリングについては、法人と調整の上、特に首都大のヒアリング時間を延ばすなど、ヒアリング時間をしっかり確保する。

記述式の部分の議論については、事前に委員に配布することで要点を絞る形で実施する。

（評価項目数が集約された場合、時間的な余裕も生じることが想定される。）

コメント記載、様式

欠席又は途中退席となる予定の委員には、分科会前に事務局による事前説明を行う。

(2)キャンパス視察

Q 今後も年2回程度のキャンパス視察を実施していく予定ですが、実施方法について、見直しが必要なことがございましたら、ご記入ください。

- ・視察と懇談だけにするなど現場に失礼にならないような、スケジュール調整が必要。
- ・会議も視察もというのは、難しい面もある。
- ・設定された日程で参加できるかどうか不安も多いので、「予備日」を設けていただくか、委員の希望に合わせて(通常の講義風景など日常メニューで良いので)キャンパス訪問を受付けてもらえると大変有難い。

改善の方向性（素案）

分科会開催と別日程での開催・予備日の設定については、事務局での検討課題とする。

今後開催分について、法人と調整

実施回数については、2回程度を維持

現行どおり。

(3)意見交換（教員・職員、学生）

Q 今後も可能な限り教職員、学生との意見交換の機会を設けていく予定ですが、実施方法について、見直しが必要なことがございましたら、ご記入ください。

- ・首都大の管理職ではない教員との意見交換はできないだろうか。
- ・学生の方々へのヒアリングは、教室を訪問させていただいた際に、少し質問させていただき、なども有効ではないか。
- ・学生アンケートの集約、教員・職員からの学校への要望書とりまとめ等があれば、これも読んだ上で、意見交換会に臨めば、より有意義かもしれない。
- ・特に職員、学生との意見交換に期待。もう少し頻度を高め、「委員側からテーマ(話題)を募集」「アンケート調査結果などを踏まえた意見交換」なども企画していただきたい。
- ・学生との意見交換は、とりわけすぐれた学生を選抜していたようであるが、ごく普通の学生と話がしたい。

改善の方向性（素案）

ヒアリング対象等については、分科会での委員の御発言を基に法人と調整する。

今後開催分について、法人と調整((2)と同様)

首都大の学生生活実態調査を提供

資料提供。首都大等が実施している既存のアンケートを活用